

書評「静かな生活」大江健三郎（新潮社）、ひびき、No.2、1991

イーヨーという障害をもつ主人公は養護学校を卒業後福祉作業所へ通っている。両親のアメリカ滞在中の半年間、大学生の主人公のマーちゃんの日記を文体にして、イーヨー・マーちゃん・弟の3人の生活が書かれている。マーちゃんはイーヨーの世話をする内にいろいろなでき事に直面することになるが、その度に兄を思いやる反応が真摯でとても清々しい。

それにしても「静かな生活」とはなんと優雅な言葉だろう。「静かな生活」から私たちが最初に受けるイメージは、例えば子供が修学旅行に出かけているときの家の中のこと。しかしこの本を契機に、静かに考えてみると「静かな生活」とは、障害の子供がいても心が波立たず穏やかに毎日を生きていくことができる状態なのだと思います。肩の力を抜いてあるがままを受容し、前向きに生きなくてはとマーちゃんたちに教えられる。